

真正の評価のための 「汎用的ルーブリック」集

平成26年10月

October 2014

岡山県立倉敷天城高等学校

巻頭言

岡山県立倉敷天城高等学校
校長 中塚多聞

このたび、本校で作成し活用しておりますルーブリック（評価基準表）を収集・整理し「真正の評価のためのルーブリック集」として刊行するに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本校は平成22年度に、文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の2期目の指定を受け、研究開発課題として「併設型中高一貫教育校における6か年を見通したカリキュラム開発」を掲げ、研究開発事業に取り組んでまいりました。本年度（平成26年度）はその最終年度に当たり、これまでの研究成果の普及に努めているところでございます。その一環としてこの「ルーブリック」集を刊行する運びとなりました。

本校では、ルーブリックの開発に当たり、次ページの研究構想図に示しておりますように「進化するルーブリックをコアとした指導と評価の一体化」の理念の下、生徒の論文作成能力などの伸長を図るとともに、教員の力量の向上にも努めております。また、作成いたしましたルーブリックは、これまでに様々なお立場の方からのご指導やご助言をいただきながら修正を加え、進化させてまいりました。

本校では、SSH研究開発の最上位の理念を「真正性の追究」とし、生徒たちが実社会に出ても役に立つ教材・教育方法の開発・蓄積を心掛けております。お聞きするところによりますと、米国ではルーブリックを州のWebページからダウンロードし、各教師がそれぞれカスタマイズして使っているとのこと。本校が作成いたしました汎用的ルーブリックは、本校のWebページにも掲載しております。各学校の実情に合わせてカスタマイズしてご使用ください。このルーブリック集が、貴校における課題研究の推進の一助となれば幸いです。今後ともこのルーブリックをよりよいものにしてまいりたいと考えております。ご使用いただいた感想やご意見等を是非お寄せいただきたく存じます。

最後になりましたが、日ごろから本校のSSH研究開発事業をご支援いただいております、文部科学省初等中等教育局、同省科学技術・学術政策局、独立行政法人 科学技術振興機構、岡山県教育委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

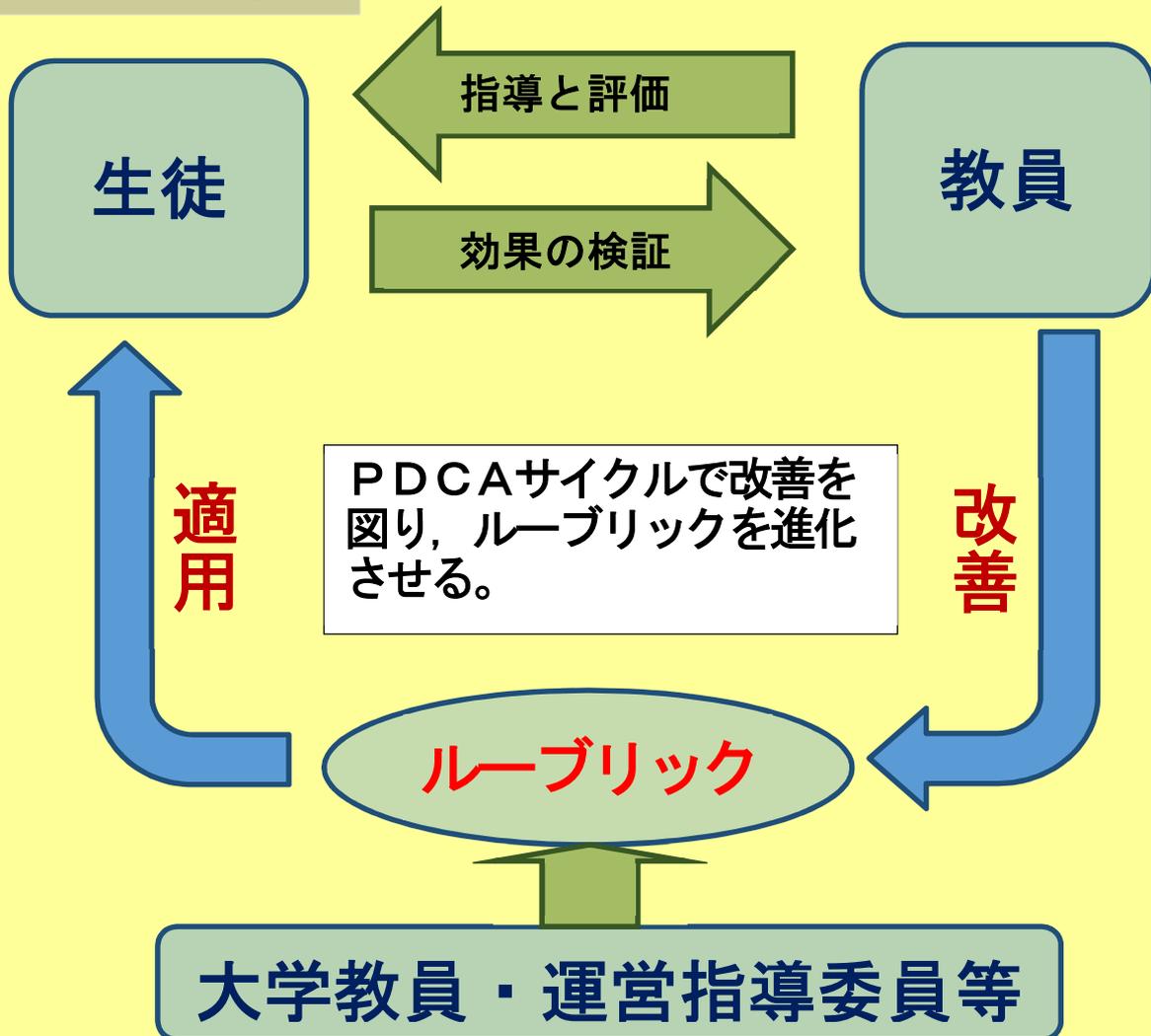
研究構想図

進化するルーブリックをコアとした指導と評価の一体化

研究の目的

- ・ 課題研究における教員の指導力の向上
- ・ 課題研究における生徒の論文作成能力の向上

研究の内容



理数科課題研究(課題研究論文を中心とした)ルーブリック

I 探究プロセスに関するルーブリック				
	① 研究課題を決めるまでの道筋がはっきりと示されている	② 課題を明らかにするのに適した観察・実験を計画し、その観察・実験結果の見通しを述べている。	③ 科学的客観性を持って観察・実験結果を収集できている。	④ 観察・実験の結果から論理的に考察して結論に至っている。
十分 (4)	どのような事象に興味を持ったかが明確に述べられており、課題設定にあたり、これらの事象と課題との間の因果関係や関連性が根拠を基に明確に記述されている。	課題を解決するための観察・実験方法や手順が、科学的な根拠に基づいた目的と見通しとともに述べられている。(科学的な見通しが伴った観察・実験計画の記述)	観察・実験方法や機器の使用方法が、科学的客観性を持ったものであることが分かります。また、観察・実験から十分な範囲と量のデータが収集できている。	観察・実験の結果が十分に吟味されており、結論に至るまでの論理が矛盾がなく一貫性があるものになっており、分かりやすく明確に記述されている。
おおむね十分 (3)	どのような事象に興味を持ったかが明確に述べられており、課題設定にあたり、これらの事象と課題との間の因果関係や関連性が示されている。	課題を解決するための観察・実験方法や手順が、その目的と見通しとともに述べられている。(観察・実験計画の記述)	観察・実験方法や機器の使用方法が、科学的客観性を持ったものであることが述べられている。また、観察・実験から適切なデータが収集できている。	観察・実験の結果が十分に吟味されており、結論に至るまでの論理が矛盾がなく一貫性があるものになっている。
やや不十分 (2)	どのような事象に興味を持ったかが明確に述べられているが、課題設定にあたり、これらの事象と課題との間の因果関係や関連性が曖昧であったり、解決できそうな高いレベルの課題が設定されている。	課題を解決するための観察・実験方法や手順が分かりやすく示されているが、その目的と見通しが述べられていない。	観察・実験結果が得られているが、その手法や機器の使用方法が、科学的客観性を持った結果を得るために適切であることが十分に述べられていない。	観察・実験の結果が吟味されているが、結論に至るまでの論理に飛躍があったり、一貫性に欠けている部分があったりする。
不十分 (1)	どのような事象に興味を持ったかが述べられているが、課題設定にあたり、これらの事象と課題との間の因果関係や関連性が示されていない。	課題を解決するための観察・実験方法や手順が分かりやすく示されていない。	観察・実験結果が得られているが、その手法や機器の使用方法が、科学的客観性を持った結果を得るために適切であることが全く述べられていない。	観察・実験の結果が十分に吟味されておらず、結論に至るまでの論理に飛躍があったり、一貫性に欠けていたりする。

Ⅱ 基本的な概念, 原理・法則などについての系統的な理解に関するルーブリック				
	① 研究のテーマについてこれまでにわかっていることを十分に調べ, 序論で整理して述べている。	② 課題に関する既習事項を序論で取りあげ, 研究に必要な専門用語や概念を十分に理解し, 論文中で適切に用いている。	③ 観察・実験の目的を十分に理解し, 適切に行っている。また, 得られた結果・データの意味をよく理解している。	④ 得られた研究結果から結論に至り, その科学的な意味を理解している。
十分 (4)	研究テーマについて, 関連することや先行研究について, 文献などの調査が十分に行われており, これまでに分かっていることと, 分かっていないことが整理して述べられている。また, これらのことに基づいて, 研究テーマの意義が述べられている。	研究に関連した専門用語や概念について, その定義が初出の段階で分かりやすく明確に記述されており文脈の中で矛盾なく適切に用いられている。	課題解決のプロセスの中での観察・実験の目的や意義が分かりやすく十分に述べられており, その結果・データの意味がよく吟味されて示されている。	得られた研究結果から結論を導き出すまでの過程が論理的に一貫性のあるものとなっており, 分かりやすく明確に記述されている。また, その結論がどのような科学的な意味を持っているか分かりやすく明確に示されている。
おおむね十分 (3)	研究テーマについて, 関連することや先行研究について, 文献などの調査が行われており, これまでに分かっていることと, 分かっていないことが整理して述べられている。	研究に関連した専門用語や概念について, その定義が十分に記述されており, 文脈の中で矛盾なく適切に用いられている。	課題解決のプロセスの中での観察・実験の目的や意義が十分に述べられており, その結果・データの意味が十分に示されている。	得られた研究結果から結論を導き出すまでの過程が論理的に一貫性のあるものとなっている。また, その結論がどのような科学的な意味を持っているか示されている。
やや不十分 (2)	研究テーマについて, 関連することや先行研究について, 文献などの調査が行われているが, これまでに分かっていることと, 分かっていないことが曖昧で, 整理した形で示されていない。	研究に関連した専門用語や概念について, その定義が十分に記述されていないか, 文脈の中で矛盾があったりする。	課題解決のプロセスの中での観察・実験の目的や意義が述べられ, その結果・データの意味が吟味されているが, それが不十分である。	得られた研究結果から導き出された結論に, 論拠や根拠が不十分であったり, 飛躍があったりするところがある。
不十分 (1)	研究テーマについて, 関連することや先行研究について, 文献などの調査が行われていない。	研究に関連した専門用語や概念について, その定義が全く記述されていないか, 文脈の中で矛盾があったりする。	課題解決のプロセスの中での観察・実験の目的や意義が述べられていなかったり, その結果・データの意味が示されていないか, なかったりする。	得られた研究結果だけを記述しており, 結論が記述されていない。

Ⅲ 科学的な考察と処理能力に関するルーブリック					
	① 誤差や精度について配慮した実験データが示されている。	② 得られた研究結果・データを適切な図表やグラフで表している。	③ 条件統一に留意し、必要ならば対照実験を行い、体系的に正確で十分な範囲のデータを収集している。	④ 得られた研究結果を科学的に分析し、考察している。	⑤ 参考文献を適切に本文中に引用し、直接得られたデータとインターネットなどからの2次情報を区別して、情報の質に注意を払っている。
十分 (4)	実験の回数や誤差について、統計的に処理されている。また、基本的な統計量が示されている。また、数値の扱い方について有効数字にも配慮がなされている。	図表・グラフの種類や形式が適切に選択されており、図表・グラフのキャプション、縦軸・横軸が示すものや単位が適切に分かりやすく明記されている。	統一すべき条件がその理由とともに明確に述べられており、必要な対照実験が行われている。また、観察・実験が体系的に行われており、正確で十分なデータが得られている。	得られた研究結果を、科学の原理や法則などに基づいて適切に分析し、考察している。また、その過程が論理的に分かりやすく記述されている。	「おおむね十分」の基準を満たすとともに、質の高い参考文献を活用するように心がけている。
おおむね十分 (3)	実験の回数や誤差についての記述がある。また、数値の扱い方について有効数字にも配慮がなされている。	図表・グラフの種類や形式が適切に選択されており、図表・グラフのキャプション、縦軸・横軸が示すものや単位が明記されている。	統一すべき条件がその理由とともに述べられており、必要な対照実験が行われている。また、観察・実験が体系的に行われている。	得られた研究結果を、科学の原理や法則などに基づいて適切に分析し、考察している。また、その過程が記述されている。	参考文献の引用が行われており、直接得られたデータと、文献などから得られたデータとの区別がなされている。
やや不十分 (2)	実験の回数や誤差についての記述が十分でなく、数値の扱い方について有効数字に配慮がないところがあったりする。	図表・グラフの種類や形式が適切に選択されているが、図表・グラフのキャプション、縦軸・横軸が示すものや単位の一部が欠けている。	統一すべき条件がその理由とともに述べられており、必要な対照実験が行われている。しかしながら、必要かつ十分なデータが得られていない。	得られた研究結果を、科学の原理や法則などに基づいて適切に分析し、考察しているが、その過程の記述が十分ではない。	参考文献リストはあるが、どの文献から引用したものが分からないところがあったり、直接得られたデータと文献などから得られたデータとの区別が曖昧なところがある。
不十分 (1)	実験の回数や誤差についての記述が全くなく、数値の扱い方が不適切であったりする。	図表・グラフの種類や形式が適切でなかったり、図表・グラフのキャプション、縦軸・横軸が示すものや単位が明記されていないであったりする。	統一すべき条件とその理由が不明確で、必要な対照実験が行われていない。また、必要かつ十分なデータが得られていない。	得られた研究結果の分析や考察が、科学の原理や法則などに基づいておらず、根拠が不明確である。	参考文献リストがない。本文中のどの部分が引用部分かリスト番号等を使って示されていない。

IV 創造的な能力に関するルーブリック

	① 課題の設定や問題の 発見に独創性がみら れ,その部分がわかり やすく示されている。	② 観察・実験方法, 探 究方法に創意工夫が 見られる。	③ データ処理に創意工 夫が見られる。	④ 研究の価値を自己評 価できている。
十分 (4)	課題発見の着眼点に 独創性がみられ, 問 題の発見から課題設 定までのプロセスが 科学的に丁寧に分か りやすく記述されて いる。	観察・実験の方法や 探究の方法に創意工 夫が見られ, 工夫し た事柄が明確にな るように分かりやす く記述されている。	得られたデータを 様々な切り口で整理 し, もっとも適当な 処理方法により, 規 則性や傾向を読み取 ろうとしている。ま た, その結果が説得 力のある論拠とな り得ている。	研究の成果がどの ような意味を持つ のか, また, 課題と して残っていること は何かを明確に記 述されている。ま た, 研究を発展さ せるための方向性 が示されている。
おおむ ね十分 (3)	課題発見の着眼点に 独創性がみられ, 問 題の発見から課題設 定までのプロセスが 記述されている。	観察・実験の方法や 探究の方法に創意工 夫が見られ, 工夫し た事柄が記述され ている。	得られたデータを適 切な方法で整理し, 規則性や傾向を読み 取ることができて いる。	研究の成果と課題 が適切に記述され ている。また, 今後 の方向性に触れて いる。
やや 不十分 (2)	課題発見の着眼点 が独創的であるとは 言えないが, 問題の 発見から課題設定ま でのプロセスが分か りやすく記述されて いる。	観察・実験の方法や 探究の方法の一部に 創意工夫が見られ るが, 工夫した事柄 が明確に記述され ていない。	得られたデータの処 理方法が最適とは 言えず, 規則性や傾 向を読み取るには やや困難なところ がある。	研究の成果と課題 の記述に不明確の ところや, 解釈に無 理があるところ が見られる。
不十分 (1)	課題発見の着眼点 に独創性は見られ ない。また, 問題の 発見から課題設定ま でのプロセスの記述 が不明確である。	観察・実験の方法や 探究の方法にあまり 創意工夫が見られ ない。	得られたデータの処 理方法が不適切で, 規則性や傾向を読み 取ることができな い。	研究の成果と課題 が適切に記述され ていない。

普通科課題研究(課題研究論文を中心とした)ルーブリック

I 探究プロセスに関するルーブリック				
	① 研究課題を決めるまでの道筋がはっきりと示されている	② 課題を明らかにするのに適した研究方法を計画し、その結果の見通しを述べている。	③ 科学的客観性を持った指標が設定でき、適切な調査研究の結果を収集できている。	④ 調査研究の結果から論理的に考察して結論に至っている。
十分 (4)	どのような事象に興味を持ったかが明確に述べられており、課題設定に当たり、これらの事象と課題との間の因果関係や関連性が根拠を基に明確に記述されている。	課題を解決するための研究計画が見通しを持って分かりやすく明確に述べられており、その方法や手順も分かりやすく明確に示されている。	設定した指標や観察・実験の方法が、科学的客観性を持ったものであることが分かりやすく明確に述べられている。また、調査研究から十分な範囲と量のデータが収集できている。	調査研究や観察・実験の結果が十分に吟味されており、結論に至るまでの論理が矛盾がなく一貫性があるものになっており、分かりやすく明確に記述されている。
おおむね十分 (3)	どのような事象に興味を持ったかが明確に述べられており、課題設定に当たり、これらの事象と課題との間の因果関係や関連性が示されている。	課題を解決するための研究計画が見通しを持って述べられており、その方法や手順が示されている。	設定した指標や観察・実験の方法が、科学的客観性を持ったものであることが述べられている。また、調査研究から適切なデータが収集できている。	調査研究や観察・実験の結果が十分に吟味されており、結論に至るまでの論理が矛盾がなく一貫性があるものになっている。
やや不十分 (2)	どのような事象に興味を持ったかが明確に述べられているが、課題設定に当たり、これらの事象と課題との間の因果関係や関連性が曖昧であったり、解決できそうにない高いレベルの課題が設定されている。	課題を解決するための研究の方法や手順が示されているが、見通しが述べられていなかったり、目的が明確に示されていないか、りしている。	調査研究の結果が得られているが、その手法や観察・実験の方法が、科学的客観性を持った結果を得るために適切であることが十分に述べられていない。	調査研究や観察・実験の結果が吟味されているが、結論に至るまでの論理に飛躍があったり、一貫性が欠けている部分があったりする。
不十分 (1)	どのような事象に興味を持ったかが述べられているが、課題設定に当たり、これらの事象と課題との間の因果関係や関連性が示されていない。	課題を解決するための研究の方法や手順が示されているが、分かりにくいところがあったり、目的や見通しが述べられていない。	調査研究の結果が得られているが、その手法や観察・実験の方法が、科学的客観性を持った結果を得るために適切であることが全く述べられていない。	調査研究や観察・実験の結果が十分に吟味されておらず、結論に至るまでの論理に飛躍があったり、一貫性に欠けていたりする。

Ⅱ 基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解に関するルーブリック

	① 研究のテーマについてこれまでにわかっていることを十分に調べ、序論で整理して述べている。	② 課題に関する既習事項を序論で取りあげ、研究に必要な専門用語や概念を十分に理解し、論文中で適切に用いている。	③ 調査研究の目的を十分に理解し、適切に行っている。また、得られた結果・データの意味をよく理解している。	④ 得られた研究結果から結論に至り、その科学的な意味を理解している。
十分 (4)	研究テーマについて、関連することや先行研究について、文献などの調査が十分に行われており、これまでに分かっていることと、分かっていないことが整理して述べられている。また、これらのことに基づいて、研究テーマの意義が述べられている。	研究に関連した専門用語や概念について、その定義が初出の段階で分かりやすく明確に記述されており、文脈の中で矛盾なく適切に用いられている。	課題解決のプロセスの中での調査研究の目的や意義が分かりやすく十分に述べられており、その結果・データの意味がよく吟味されて示されている。	得られた研究結果から結論を導き出すまでの過程が論理的に一貫性のあるものとなっており、分かりやすく明確に記述されている。また、その結論がどのような科学的な意味を持っているか分かりやすく明確に示されている。
おおむね十分 (3)	研究テーマについて、関連することや先行研究について、文献などの調査が行われており、これまでに分かっていることと、分かっていないことが整理して述べられている。	研究に関連した専門用語や概念について、その定義が記述されており、文脈の中で矛盾なく適切に用いられている。	課題解決のプロセスの中での調査研究の目的や意義が述べられており、その結果・データの意味が示されている。	得られた研究結果から結論を導き出すまでの過程が論理的に一貫性のあるものとなっている。また、その結論がどのような科学的な意味を持っているか示されている。
やや不十分 (2)	研究テーマについて、関連することや先行研究について、文献などの調査が行われているが、これまでに分かっていることと、分かっていないことが曖昧で、整理した形で示されていない。	研究に関連した専門用語や概念について、その定義が十分に説明されていないか、文脈の中で矛盾があったりする。	課題解決のプロセスの中での調査研究の目的や意義が十分に述べられていなかったり、その結果・データの意味が十分に吟味されていないか、たりする。	得られた研究結果から導き出された結論に、論拠や根拠が不十分であったり、飛躍があったりするところがある。
不十分 (1)	研究テーマについて、関連することや先行研究について、文献などの調査が行われていない。	研究に関連した専門用語や概念について、その定義が全く説明されていないか、文脈の中で矛盾があったりする。	課題解決のプロセスの中での調査研究の目的や意義が述べられていなかったり、その結果・データの意味が示されていないか、たりする。	得られた研究結果から導き出された結論が、論拠や根拠が不十分であったり、飛躍があったりする。

Ⅲ 科学的な考察と処理能力に関するルーブリック

	① 誤差や精度、統計処理に配慮したデータが示されている。	② 得られた研究結果・データを適切な図表やグラフで表している。	③ 条件統一に留意し、必要ならば対照実験を行い、体系的に正確で十分な範囲のデータを収集している。	④ 得られた研究結果を科学的に分析し、考察している。	⑤ 参考文献を適切に本文中に引用し、直接得られたデータとインターネットなどからの2次情報を区別して、情報の質に注意を払っている。
十分 (4)	実験の回数や誤差、収集したデータが、統計的に処理されている。また、基本的な統計量が示されている。また、数値の扱い方について有効数字にも配慮がなされている。	図表・グラフの種類や形式が適切に選択されており、図表・グラフのタイトル、縦軸・横軸が示すものや単位が適切に分かりやすく明記されている。	統一すべき条件がその理由とともに明確に述べられており、必要な対照実験が行われている。また、調査研究が体系的に行われており、正確で十分なデータが得られている。	得られた研究結果を、科学の原理や法則などに基づいて適切に分析し、考察している。また、その過程が論理的に分かりやすく記述されている。	参考文献の引用が適切に行われており、直接得られたデータと、文献などから得られたデータとが明確に区別して記述されている。
おおむね十分 (3)	実験の回数や誤差、データの統計処理についての記述がある。また、数値の扱い方について有効数字にも配慮がなされている。	図表・グラフの種類や形式が適切に選択されており、図表・グラフのタイトル、縦軸・横軸が示すものや単位が明記されている。	統一すべき条件がその理由とともに述べられており、必要な対照実験が行われている。また、調査研究が体系的に行われている。	得られた研究結果を、科学の原理や法則などに基づいて適切に分析し、考察している。また、その過程が記述されている。	参考文献の引用が行われており、直接得られたデータと、文献などから得られたデータとの区別がなされている。
やや不十分 (2)	実験の回数や誤差、データの統計処理についての記述が十分でなかったり、数値の扱い方について有効数字に配慮がないところがあったりする。	図表・グラフの種類や形式が適切に選択されているが、図表・グラフのタイトル、縦軸・横軸が示すものや単位の一部が欠けている。	統一すべき条件がその理由とともに述べられており、必要な対照実験が行われている。しかしながら、必要かつ十分なデータが得られていない。	得られた研究結果を、科学の原理や法則などに基づいて適切に分析し、考察しているが、その過程の記述が十分ではない。	記述の一部に、どの文献から引用したものか分からないところがあったり、直接得られたデータと文献などから得られたデータとの区別が曖昧なところがある。
不十分 (1)	実験の回数や誤差、データの統計処理についての記述が全くなかったり、数値の扱い方が不適切であったりする。	図表・グラフの種類や形式が適切でなかったり、図表・グラフのタイトル、縦軸・横軸が示すものや単位が明記されていないかあったりする。	統一すべき条件とその理由が不明確で、必要な対照実験が行われていない。また、必要かつ十分なデータが得られていない。	得られた研究結果の分析や考察が、科学の原理や法則などに基づいておらず、根拠が不明確である。	どの文献から引用したものか分からないところがあったり、直接得られたデータと文献などから得られたデータとの区別がなされていないかあったりする。

IV 創造的な能力に関するルーブリック

	① 課題の設定や問題の発見に独創性がみられ、その部分がわかりやすく示されている。	② 観察・実験方法、探究方法に創意工夫が見られる。	③ データ処理に創意工夫が見られる。	④ 研究の価値を自己評価できている。
十分 (4)	課題発見の着眼点に独創性がみられ、問題の発見から課題設定までのプロセスが丁寧に分かりやすく記述されている。	観察・実験の方法や探究の方法に創意工夫が見られ、工夫した事柄が明確になるように分かりやすく記述されている。	得られたデータを様々な切り口で整理し、もっとも適切な処理方法により、規則性や傾向を読み取ろうとしている。また、その結果が説得力のある論拠となり得ている。	研究の成果がどのような意味を持つのか、また、課題として残っていることは何かが明確に記述されている。また、研究を発展させるための方向性が示されている。
おおむね十分 (3)	課題発見の着眼点に独創性がみられ、問題の発見から課題設定までのプロセスが記述されている。	観察・実験の方法や探究の方法に創意工夫が見られ、工夫した事柄が記述されている。	得られたデータを適切な方法で整理し、規則性や傾向を読み取ることができている。	研究の成果と課題が適切に記述されている。また、今後の方向性に触れている。
やや不十分 (2)	課題発見の着眼点が独創的であるとは言えないが、問題の発見から課題設定までのプロセスが分かりやすく記述されている。	観察・実験の方法や探究の方法の一部に創意工夫が見られるが、工夫した事柄が明確に記述されていない。	得られたデータの処理方法が最適とは言えず、規則性や傾向を読み取るにはやや困難なところがある。	研究の成果と課題の記述に不明確のところや、解釈に無理があるところが見られる。
不十分 (1)	課題発見の着眼点に独創性は見られない。また、問題の発見から課題設定までのプロセスの記述が不明確である。	観察・実験の方法や探究の方法にあまり創意工夫が見られない。	得られたデータの処理方法が不適切で、規則性や傾向を読み取ることができない。	研究の成果と課題が適切に記述されていない。

岡山県立倉敷天城中学校・高等学校 課題研究「ステージ(ポスター)発表に関するルーブリック」

Speech 発表内容が 明確である	これまでの先行研究で分かっている事実、自分の研究のオリジナリティ、社会的な意義が分かりやすく伝わるように構成されている必要がある。また、結論では、この研究によって明らかになったことと今後の課題が明確に述べられる必要がある。		
	① Introduction/Overview (この発表で何を伝えたいのか)が明確になっている	② Conclusion (この研究でわかったこと)が明確になっている	③ Speech 時間(ディスカッションは除く)が適切である
十分 (4)	先行研究の内容、自分の研究のオリジナリティや社会的な意義や学問上の位置付けがどこにあるのかについて明確に分かるように構成されている。プレゼンテーションの内容は、事実に基づいていて正確であるとともに、必要な情報がすべて盛り込まれている。また、聴衆に分かりやすい構成になっている。	情報は、論理的に分かりやすく配列されている。次に何が述べられるのかということを予想し易い。研究によって得られた結果からどこまでが明らかになったのか、また、何が課題として残ったかが明確に示されている。また、研究の目的(もしくは仮説)に示した内容と、結論が的確に整合している。	決められた時間(通常は5分~10分程度)内で説明し、聴衆が理解することのできる適切なスピードと時間であった。
おおむね十分 (3)	先行研究の事実、自分の研究に触れているが、どこに研究のオリジナリティがあるのかが少し分かりにくい。また、自分の研究の社会的な意義や学問上の意義・位置付けが曖昧で、明確に伝わらない。プレゼンテーションには、概ね必要な内容が入っている。	情報は、論理的に分かりやすく配列されているが、研究によって明らかになったことと、課題として残ったことがやや不明瞭である。また、研究の目的(もしくは仮説)に示した内容と、結論にやや整合性の欠けたところがある。	決められた時間内で必要なことが説明できている。しかし、早口であったり情報が多すぎたりして聴衆が理解できる量ではなかった。
やや不十分 (2)	先行研究の事実または、自分の研究のオリジナリティが示されていない。内容は、自分の行った研究について概ね正確に表現できているが、必要な情報が抜けているところもあり、全体にやや分かりにくくなっている。	研究によって得られた事実は述べられているが、その事実から何が明らかになったのかが明確に伝わらない。	スピーチが冗長であったり逆に情報不足であったりする。聴衆に与える情報量を取捨選択してスリムにしたり増やしたりして適切なものにする必要がある。
不十分 (1)	先行研究によって明らかにされている事実と、自分の行った研究の成果の区別がなく、オリジナリティや研究の社会的な意義・学問上の位置付けが全く分からない。自分の行った研究についての事実は述べられているが、必要な情報が抜け落ちていることもある。	情報の並べ方が不適切で、聴いていても何が言いたいのか、また、何が明らかになったのか分からない。	大幅な時間の超過もしくは不足であった。プレゼンテーションを抜本的に考え直す必要がある。

Visual 適切な 発表資 料が用 意され ている	プレゼン内容を説明、補強するための適切な資料を準備し効果的に用いる必要がある。図表、グラフには、タイトルや単位など必要な情報をすべて記載しなければならない。文字サイズはできるだけ大きい方が良い。また、文字色は黄色など薄い色は避けるべきである。背景色によって文字の見え方が異なるので注意を要する。1枚のスライドに多くの情報を詰め込むことは避けるべきである(できるだけ少なく)。スライドの数も、すぐに切り替わってしまうことのない程度の量にとどめるべきである。		
	① スライド(ポスター)に理解を促す図表、グラフ、映像等が使われている	② 文字の大きさが適切である	③ スライドの枚数(ポスターの情報量)が適切である
十分 (4)	グラフ、写真、絵や図は、大きさや位置、配色が適切で、聴衆の関心を引き付けたりプレゼンテーションのテーマや内容を引き立たせるものとなっている。また、単位や縦軸・横軸の説明・目盛りの数値など、必要な情報が明記されている。	文字の色、大きさ(サイズ)、字体(フォント)は、読みやすく、内容が分かりやすいように適切に記述されている。文字の大きさは十分に大きく、文字色・背景色も読み取りやすいものとなるよう工夫されている。	プレゼン内容を説明、補強する適切な枚数で、ムダや不足がない。聴衆が1枚のスライドを理解するのに必要な時間が確保されている。
おおむね十分 (3)	グラフ、写真、絵や図は、聴衆の関心を引き付けたりプレゼンテーションのテーマや内容を引き立たせるものとなっているが、大きさが小さかったり配色によって分かりにくいものもある。また、グラフには単位がなかったり必要な情報が抜け落ちているものもある。	文字は十分に大きく、読みとりやすくなっているが、ところどころ小さかったり薄い文字色のために読みとりにくかったりするところがある。	プレゼン内容を説明、補強する適切なスライドが用意されている。しかし、一部、ムダや不足と思われる部分があったり、スライドがすぐに切り替わって十分な理解ができなかったりするところもある。
やや不十分 (2)	グラフ、写真、絵や図は、関心を引くように工夫されている。しかし、プレゼンテーションのテーマや内容とは関連性が弱いものもある。また、図表やグラフの一部に単位などの必要な情報が盛り込まれていないものもあり、何について説明したものなのか分かりにくいものがある。	文や文章は、内容が分かりやすいように記述されているが、小さく読み取りにくいところや、濃い背景色に薄い文字色で見えにくいところが随所にある。	プレゼン内容を説明、補強するスライドもあるが、説明するうえでムダや不足のスライドが多い。スライドを取捨選択したり分かりやすくなるよう追加したりする必要がある。
不十分 (1)	幾つかの絵や図は、特に注意を引くようなものでもなく、プレゼンテーションの内容との関連性が薄いものとなっている。また、図表やグラフには、必要な情報が盛り込まれておらず、何について説明したものなのか分かりにくくなっている。	文字は、読み取りにくく、内容を理解することが困難である。	プレゼン内容を説明、補強するためのスライドになっていない。必要なスライドが明らかに不足している。聴衆が理解しやすいよう、より工夫されたスライドを追加する必要がある。

Delivery デリバリの 仕方が適切 である	Posture, Voice, Eye Contactができていて、聴衆との対話を意識ながら、分かりやすく説明することが必要である。聴衆の反応や理解度を確認しながらプレゼンを行うとよい。用意したメモ(原稿)を読み上げることは避けるべきである。ときどきメモを見ることは差し支えない。練習を繰り返す必要がある。		
	① Posture(姿勢)がしっかりできている	② Voiceが適切である	③ Eye Contactができています
十分 (4)	ほとんどメモを見ることなく、発表、質疑応答ともに自信を持ってできており、聴衆を魅了するものとなっている。質疑応答では、質問者の意図がよく理解できており、想定外の質問にも的確に答えられている。	音量・発音ともに適切で、明瞭である。不適切な読みがなく、すべての聴衆が聞き取れる。また、スピードも適切である。	適切に視線を合わせ、聴衆の反応(理解度)を確認しながら、間合いをとったり話すスピードを調節したりしながら的確に伝えることができています。
おおむね十分 (3)	発表は自信をもってできている。質疑応答においても概ね的確に答えられているが、想定外の質問には答えに窮する場面もある。	音量・発音ともに概ね適切で、明瞭である。ほとんどの人が聞き取れる。	視線を合わせ、聴衆の反応(理解度)を確認しようと努力している。メモをあまり見ることなく伝えることができています。
やや不十分 (2)	メモを見ながら発表していて、質疑応答時には、質問者の意図が理解できなかつたり、答えに窮する場面が多い。メモを見ずにプレゼンテーションを行う練習を繰り返したり、あらかじめ想定される質問への答えを用意しておく必要がある。	音量・発音ともに概ね適切であるが、音量が小さかったりスピードが速すぎて聞き取れないこともある。	時折アイコンタクトをとるが、メモを読むことがほとんどである。
不十分 (1)	ほとんどがメモを見ながらの発表となっており、自信、意欲がないように見える。	つぶやくように話し、不適切な読みがある。聞き取れない内容である。	視線を合わせることはなく、一方的な説明(メモの読み上げ)となっている。

【参考文献】

- ・茗溪学園中・高等学校「SSH研究開発実施報告書」（平成23年度）
- ・森田裕介，益子典文『長崎大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 Vol. 1』「ループリックの開発方法と実践事例に関する調査」（2002）
- ・照屋さゆり：講演資料「アウトカムズ・システムの可能性 パイロットプログラムの試行から」（2009）
- ・Forest Lake Elementary Schoolで使用しているプレゼンテーションのループリック：
Forest Lake group PowerPoint presentation rubric

岡山県立倉敷天城高等学校

Okayama Prefectural Kurashiki Amaki Senior High School

〒710-0132 岡山県倉敷市藤戸町天城269番地

Zip code : 710-0132

269 Amaki Fujito-cho, Kurashiki-shi, Okayama-ken, Japan

TEL 086-428-1251 FAX 086-428-1253

URL <http://www.amaki.okayama-c.ed.jp/>

e-mail: amaki@pref.okayama.jp (学校代表)

amaki-ssh@pref.okayama.jp (SSH)